

2009.05.23

「地域データ分析活用講座
～データをもとに地域と観光を考えてみよう～」
基調講演

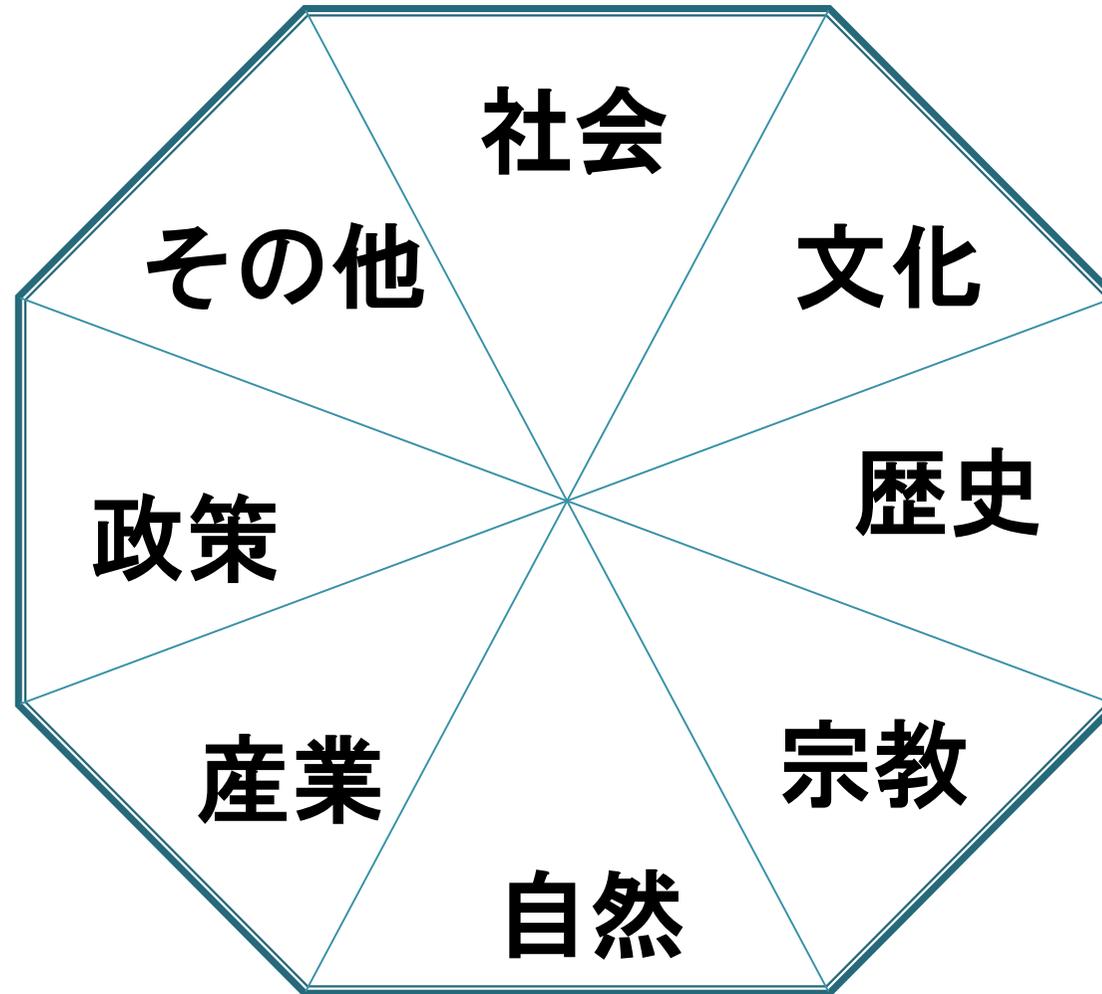
これでいいのか？ 地域データ・観光データ

奈良県立大学 地域創造学部
遠藤 英樹

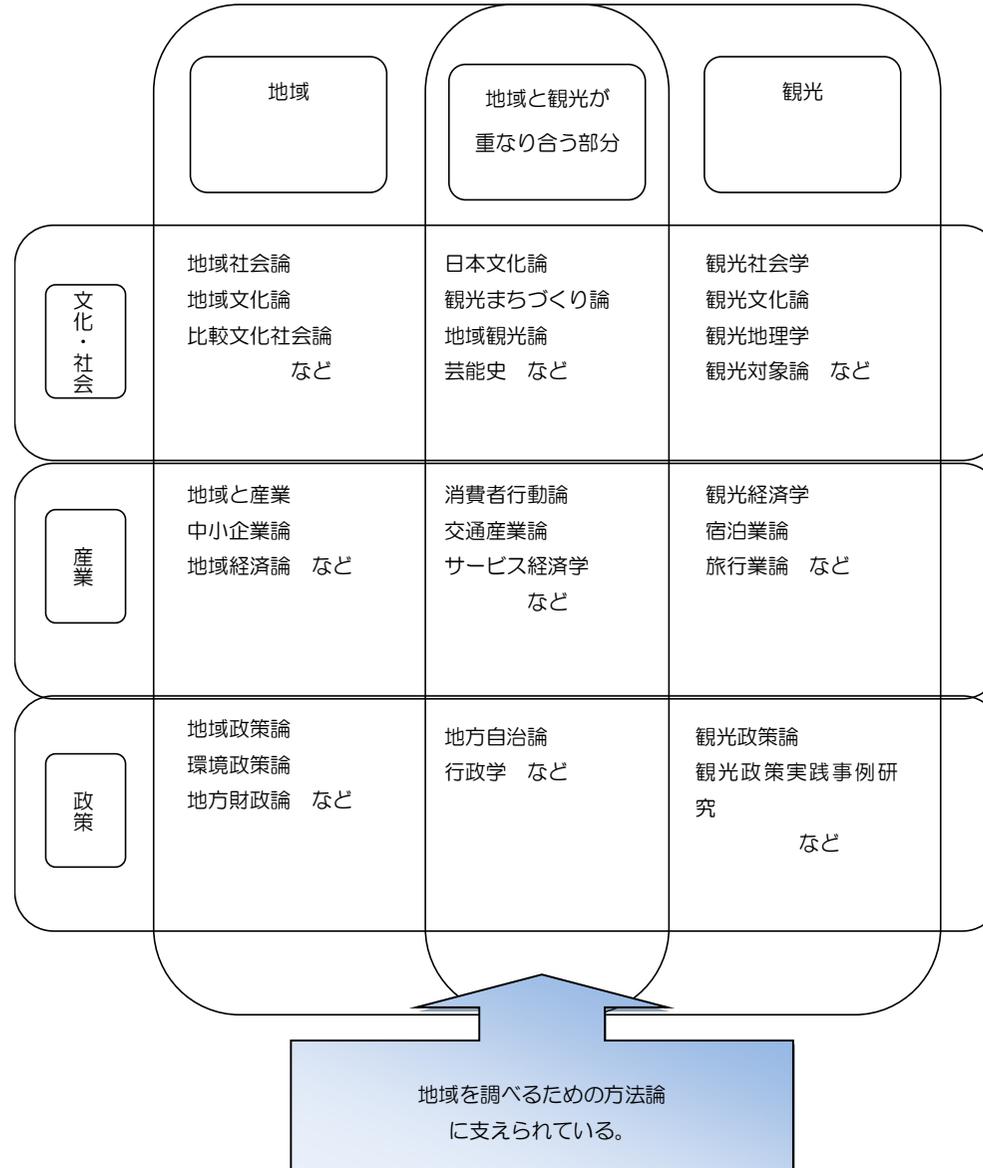
このワークショップの目指すところ

- エビデンス・ベーストな地域づくりをめざして
- →
- 1) エビデンス・ベーストとは？
- 2) なぜそれが必要か？

地域づくりの分野・領域



奈良県立大学の地域創造学



さまざまな分野・領域のつながりの必要性

- 奈良における宿泊業、交通業という産業を例にとっても—
- →文化・歴史・宗教・社会制度・自然・産業・政策などの分野・領域を関連させて考えないといけない。
- →地域もまた、奈良県北部・中部・南部をつなげて考える必要がある。
- ★ネットワークの必要性

地域創造のステップ

地域の現状把握



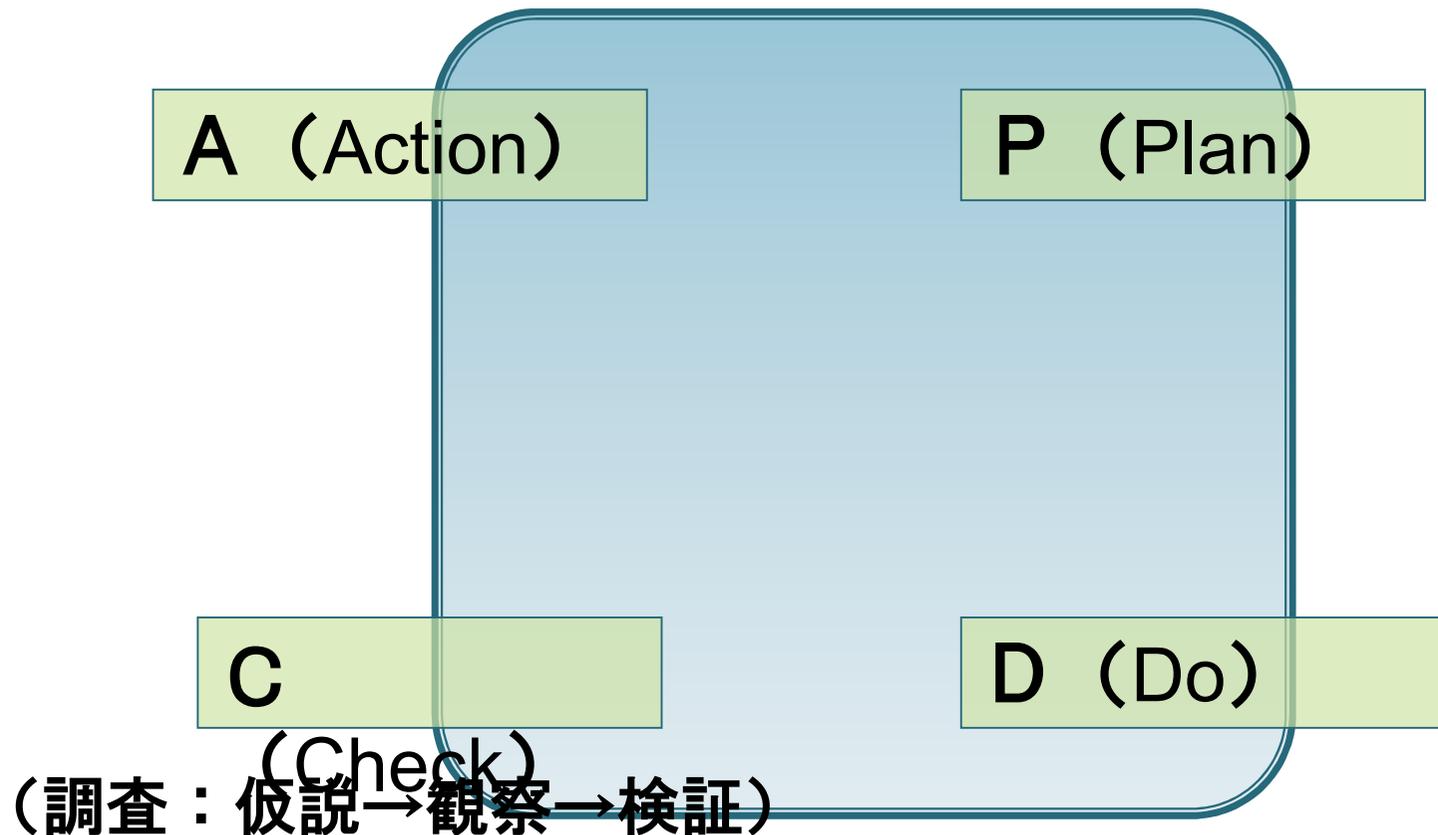
地域づくり

地域の現状把握

- 地域や観光が現在どのようなものなのか。
- 地域の中にどのような資源が発見できるのか。
- 地域や観光が現在かかえている問題点は何か。
- そもそも、地域や観光とは何なのか？それを良くするとはどういうことなのか？

● ★調査の大切さ

地域づくりのサイクル



★調査の大切さ

「PDCAサイクル」とは？

- Plan（計画）：従来の実績をはじめとするさまざまなデータ等をもとにして、業務計画を作成する段階
- Do（実施）：計画に沿って業務を行う段階
- Check（評価）：業務を実施した効果を測定し、業務全体を評価する段階
- Action（改善）：評価にもとづいて、改善を行う段階

調査の手順

- 1) 調査企画段階
- 2) 調査設計段階
 - 調査方法を考える：母集団、サンプリングの方法、配布回収方法
 - 質問項目を決定する：概念の操作的定義、変数、仮説
 - 調査票を作成する：ワーディング、選択肢、質問の順番、プリテスト
- 3) 実査段階
 - 調査票印刷、調査の手引き作成など
 - サンプリング作業、郵送作業、調査の実施
- 4) 調査票のデータ化段階
 - 回答のチェック、データ入力、データクリーニング
- 5) データ分析、公表段階

地域・観光データの問題点

- 1) 調査の方法論の未成熟さ
- 2) 調査データの分析方法の未成熟さ
- 3) コンサルタント会社への外注

調査の方法論の未成熟さ

- ◎ダブルバーレルの質問文
- (例) 「幼児教育、義務教育、障害児教育などの学校教育や学校施設の整備についてどう思いますか？」 (門真市)
- ◎あいまいな質問文
- (例) 「幼児教育、義務教育、障害児教育」 (枚方市)
- ◎相互排他的でない選択肢
- (例) 「あなたが買い物する場所は？ ①駅周辺 ②スーパーマーケット・・・」 (藤井寺市)
- ◎サンプリング
- 予算の理由からきりのいいサンプル数にする。

データの分析方法の未成熟さ

- ◎現代の少年犯罪数はどんどん増加している。
- →「若者はきれやすい」という結論？

- ◎小泉政権時代に社会の不平等は拡大した。
- →現在の格差社会の元凶のすべては小泉改革にある？

統計的思考力の必要性と限界

- 自分の思い込みだけで、地域づくりを行わないためにも、統計的思考力は必要。
- →しかし、いくつかのことをしっかりと考慮していくべき。
- 1) 熟練の坎の大切さ
- 2) 科学的方法とは、正しい答えを導くということではなく、プロセスを透明化すること。
- 3) データの恣意性ではなく、データの構築性
- 4) 統計だけで分からないことがたくさんあるということをしっかりと認め、それが何なのかをきちんと把握していく。

でも、統計は難しくない

- 統計を最初に学ぶときの注意点
- 1) 統計理論や計算方法はブラックボックスで良い。
- 2) その手法で何ができて、何ができないのかきちんと知る。
- 3) 分析したいことが何なのかを明確にする。
- 4) 自分自身で分析をする。

エビデンス・ベーストな地域創造へ

- エビデンスの可能性と限界を見極めながら、同時に、それを根拠としてしっかりと地域創造をしていく。